７．ＩＴ教材のブラッシュアップ

【ワーキンググループ２】

第2回 ワークショップの感想とワーキンググループの今後の活動について

WG2 プロダクト

の部分をクリックするとジャンプします















第 2 回 WS 報告書（グループ 2）

「ワークショップ（WS）の感想とワーキンググループの今後の活動について」

岩手医科大学歯学部口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野
城　茂治

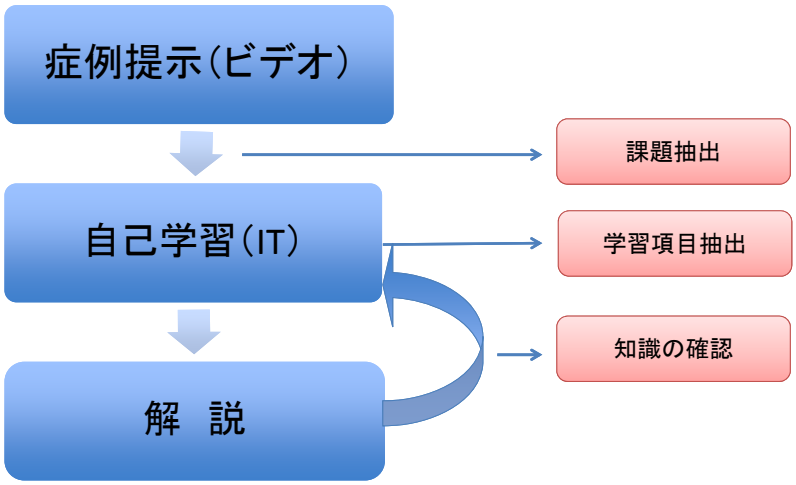
第 1 回に続き文部科学省大学間連携共同教育推進事業である「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」に関する第 2 回 WS にグループ 2（テーマ：基礎的疾患を有する患者の歯科治療）の世話役として参加させていただきました。今回は、平成 25 年度第 3 学年に対する授業コンテンツの具体的な検討が主たる目的でしたので、グループ 2 では、これまでメーリングリスト、Skype 会議で検討したコンテンツについて具体的な検討に入りました。これまで検討して来た 2 症例（心不全患者と虚血性心疾患患者）のビデオ製作について、対象が第 3 学年であること、シラバス上グループ 2 のテーマに与えられた授業コマ数が 1 コマであることなどから虚血性心疾患患者の 1 例に絞ることにしました。さらに、疾患の詳細についての学習は他のコースに譲ることとし、高齢者での歯科治療に先立つ医療面接、術前の評価、一般的な治療時の注意点、緊急時の対応を中心に学べるコンテンツとすることとなった。本テーマのユニット（チーム医療と口腔医学）上の位置づけが明確にできてなかったことが今回の反省としてあげられる。さらに、全体討論でも指摘されたようにテーマごとの位置づけが明確にされないまま各グループで検討されて来た不具合が本グループでも露呈したと反省している。今後は、本ユニットにおけるグループ 2 の位置づけを明確にし、他のグループとも連携しながら具体的なコンテンツ製作を進めていくことを確認した。その上で、ビデオ製作は昭和大学で、医療面接については北海道医療大学で、治療中の対応については岩手医科大学で中心となって具体的なコンテンツを創ることを決定した。いづれにしても、よりまとまったコンテンツとなるためには、グループ内、グループ間の連携が不可欠で、メール、Skype 会議をおおいに利用しながら進めて行く必要がある。

WS 後にグループ 2 のテーマが 3 学年の本ユニットで実施するには時間がタイトであり、他のテーマとの整合性にも乏しいことから今後作成するコンテンツは他のコース（第 3 学年：ヒトの病気 A）で活用することを念頭に作成することとした。

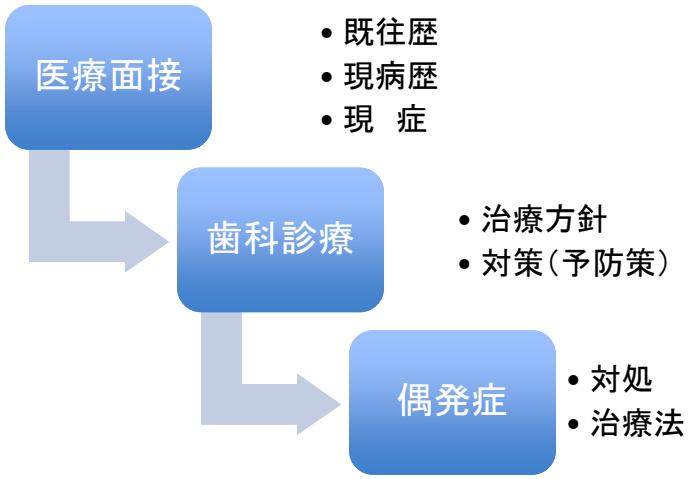
Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療教育プログラム

第3学年	基礎疾患を有する患者の歯科治療1 （医療面接、全身状態の把握、循環器疾患と歯科治療）
第4学年	基礎疾患を有する患者の歯科治療2 （呼吸器疾患（喘息）、代謝性疾患（糖尿病）、泌尿器疾患（腎不全）と歯科患者
第5学年	基礎疾患を有する患者の歯科治療3 （臨床実習を通して基礎疾患を有する患者の歯科治療を学習する）

Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療教育プログラム



Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療
ビデオ構成



Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療

ビデオ（症例）；背景

抜歯中に胸痛を訴えた高血圧患者

- 60才男性
  - ・全身状態　体格　中肉中背、栄養状態良好
  - ・10年前より高脂血症にて近医内科に通院中。
  - ・30本/日のヘビースモーカーである。
  - ・バイタルサイン　血圧　130/75mmHg,
    心拍数 66/min
- 患者は極度の歯科恐怖症があり、歯の動揺を自覚していたが、3日前から下顎左側大臼歯部の同様と咬合痛を主訴に受診した。

Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療

ビデオ（症例）；シナリオ
抜歯中に胸痛を訴えた高血圧患者

- 医療面接を行い、主訴および現症を確認する。
- 高脂血症、運動耐容能についても状況を把握する。
- レントゲン撮影により、高度の歯周炎であることを説明する。
- 治療法について抜歯の必要性を説明する。
- バイタルサインのチェックを術前に行わないで麻酔をする。
- 患者は極度の緊張を担当医に訴える。
- 安心させ鉗子で抜歯を始める。
- 患者は胸痛を訴える。
- 担当医はオロオロする。
- はじめてバイタルササイン確認する。
- 血圧上昇、脈拍数も上昇していることを担当医ははじめて確認する。
- 患者は冷汗、悪心、嘔吐の症状をみとめる。
- 突然のショック様症状に陥る（血圧低下）
- 担当医は慌てて救急車を呼ぶ。
- 患者は搬送されていく。
- 患者に何が起こったのか？といった形で終わる

Group 2：基礎疾患を有する患者の歯科治療

ビデオ（症例）；学習項目
抜歯中に胸痛を訴えた歯科患者

ビデオの問題点から抽出すべき課題（学習項目）

1. 医療面接
   1）質問項目　→　項目チェック
   2）バイタルサインチェック　→　種類と正常
   3）予備力の評価　→　運動耐容能
2. 歯科治療時
   1）モニターの必要性　→　血圧、心電図、Spo2
   2）歯科治療（ストレス）に伴う循環への影響　→生体反応
   3）局所麻酔の循環への影響　→血管収縮薬
   4）胸痛について　→狭心症、心筋梗塞
3. 偶発症
   1）虚血性心疾患を有する患者　→　歯科治療における注意点
   2）常用薬　→　歯科治療における注意点
   3）緊急処置を要する状態

作成する資料について

1. ビデオ（担当；昭和大）
2. 問診票作成（担当；北医療大）
3. 医療面接での質問内容（担当；北医療大？）
4. 診療前の患者の状態の把握（担当；岩手医大）
   - ビデオの内容に関するE-learnigでの設問を作成する。
   - 設問は〇×形式の問題形式とする。
     （ビデオの内容を回顧しながら、学習させるため）
   - 医療面接、全身評価など基礎疾患患者を診療する際の
     基本的知識の習得を主体とする。（第3学年対象のため）
5. 本グループのコンテンツはD3ヒトの病気Aで、活用することとする。
   よって、内容も既存のコンテンツうを充実させるものとする。

E-learning 用設問例

ビデオの中で行われた処置に関して、正しいものに〇を記入せよ。

（〇） 生体情報モニターは、血圧、心電図、Spo2などの測定が可能である。

（〇） 術中、全身状態の急変が懸念される場合は、生体情報モニター
を使用すべきである。

（〇） 歯科治療は、患者にとってストレスとなり、血圧上昇等を惹起する可
能性がある。

（〇） 多くの局所麻酔薬には、血管収縮薬（エピネフリン）が含有されてい
るため、局所麻酔によって脈拍と血圧は上昇する。

（〇） 胸痛の原因として、狭心症、心筋梗塞などが考えられる。

（X） 常用薬についての配慮は必要ない。

（〇） 歯科医師も救急蘇生に関する知識を身につけていなければならない。